



連携いあい

平成29年9月

第17号

岩手県立磐井病院

『自治体立優良病院総務大臣表彰』を受賞！



去る6月22日（木）、平成29年度全国自治体病院協議会の優良病院表彰式があり、当院が『総務大臣表彰』を受賞しました。この表彰は、自治体立の病院で地域医療の確保に重要な役割を果たしており、かつ経営の安全性が確保されている病院を表彰するため、毎年1回実施されているもので、今回は全国から当院を含む5病院が受賞しました。受賞にあたっては、救急医療や付属診療所の運営、がん診療及び周産期医療などが評価されました。

今回の受賞も、皆様方の日頃からの支援の賜物であり、当院の運営へのご協力にあらためて感謝いたします。

目次

- 『自治体優良病院総務大臣表彰』を受賞！……………1
- 各医療機関・施設への『連携施設訪問』を実施しています…3
- 歯科口腔外科の紹介……………2
- 赤ちゃんにやさしい病院（BFH）認定に向けて……………4
- 化学療法室の紹介……………2
- 褥瘡予防委員会からのお知らせ……………4
- 「V ビームレーザー装置」を導入しました……………3

歯科口腔外科の紹介

第1 歯科口腔外科長 石川 義人

岩手県立磐井病院歯科口腔外科は口腔外科的疾患の専門医療機関として 2007 年に開設され、2008 年 6 月から入院患者の受け入れを開始しました。県立病院では中央病院、久慈病院に続いて三番目の開設です。

当科では口腔領域の腫瘍性疾患、嚢胞疾患、外傷、顎関節疾患、唾液腺疾患、歯性感染症などを中心に扱っております。その他有病者の歯科治療、歯科恐怖症や嘔吐反射の強い症例には静脈内鎮静法を併用しております。

2017 年 6 月 29 日に改装工事が終了し治療台（ユニット）が今までの 3 台から 6 台に倍増しました。スタッフは日本口腔外科学会指導医 1 名、専門医 1 名、歯科衛生士が 4 名で稼働しております。

昨今、周術期口腔機能管理に係る診療報酬が新設されました。これは医科歯科連携に基づくもので合併症の予防を目的としており、今後ますますマンパワー特に歯科衛生士の増員が不可欠になってきます。

【診察室】



【歯科口腔外科スタッフ】



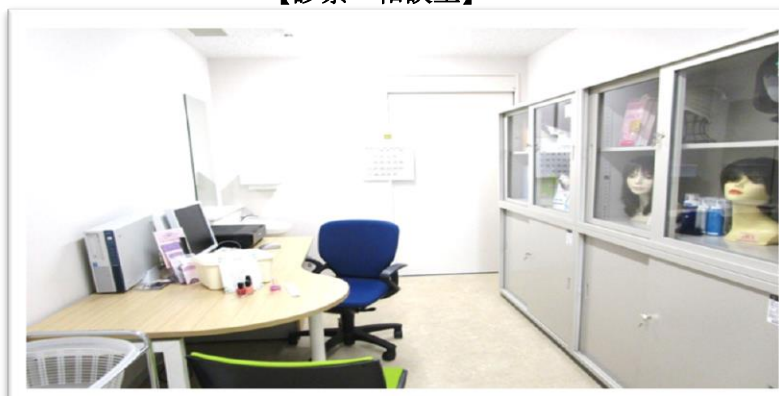
外来化学療法室の紹介

がん化学療法看護認定看護師 道上 美貴

【治療スペース】



【診察・相談室】



外来化学療法室は、平成 28 年 10 月に院内に増築移転致し、これまで 7 床だった治療ベッドが 12 床に増床されました。大きな窓のあるゆったりとしたスペースで、明るく静かな環境の中、治療を提供することができるようになりました。近年の化学療法は新薬の適応も多く、今までは入院で実施していた治療も、がん腫や治療内容によっては外来で治療するものに変化しています。治療内容が複雑化する中でも患者さんが安心して治療を受けられ、また、辛い治療期間でもできるだけ自分らしく過ごせるように、相談室を設けて副作用相談に応じています。ボディイメージの変化（脱毛、色素沈着、爪の変形など）などの相談には個別にゆっくり対応しております。

治療中の副作用軽減の為には、治療前からの医科歯科連携、薬局での服薬指導など多職種の連携が欠かせません。化学療法に関わる地域の医療機関の皆様、今後ともご協力をよろしくお願い致します。

形成外科に「Vビームレーザー装置」を導入しました

形成外科 本庄 省五

当院では今回、形成外科に「Vビームレーザー装置」を導入しました。Vビームレーザーとは、「赤い色に作用して血管病変を治療する」レーザーです。「単純性血管腫」、「莓状血管腫」、「毛細血管拡張症（赤ら顔）」の3疾患に対して保険治療が認められています。

【単純性血管腫】

単純性血管腫とは、ポートワイン母斑ともいわれる「赤あざ」のひとつで、肌の表面近くにある血管が拡張して増える病気です。生まれつきのもので、時間がたっても自然に消えることはありません。大人になると、濃くなったり盛り上がったりすることがあります。



【いちご状血管腫】

いちご状血管腫とは、乳児血管腫とも呼ばれる「赤あざ」のひとつで、肌の表面近くにある血管が増殖する病気です。生後1か月ぐらいから出てきて、その後盛り上がってきて、表面がイチゴを半分に切ったようになります。しかし、生後6か月から1年をピークに徐々に消えてきて、7歳までに4人に3人が消えるとされています。ただ、色は消えても肌のたるみ、質感の違いが残ることがあります。早い時期にレーザー治療を開始すると、早く消えると言われています。



【毛細血管拡張症（赤ら顔）】

毛細血管拡張症（赤ら顔）とは、様々な原因によって、ほっぺたを中心に赤く見えたり、血管がはっきりと透けて見えたりする病気です。年齢と紫外線の影響でより目立ってくると言われています。



このほか保険適応外ですが、老人性血管腫（いわゆる赤ボクロ）、ニキビ跡の赤み、肥厚性瘢痕等にも有効であるとされています。診療を希望される方は、診察の予約をして来院してください。

各医療機関・施設への『連携施設訪問』を実施しています

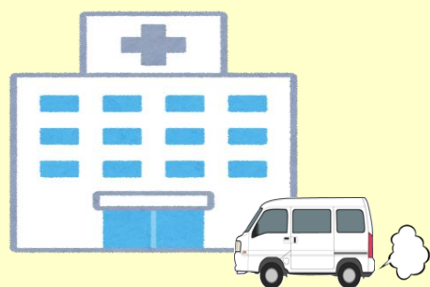
地域医療福祉連携室 長倉 学

地域連携室では『顔の見える連携』を目指し、昨年7月より毎月1回：4～6施設ずつのペースで、患者紹介・逆紹介で連携実績のある医療機関や施設への訪問を行っています。

対象施設は一関市内を中心に、病院、診療所・個人医院、介護支援事業所・支援センター、訪問看護ステーションなど多岐にわたり、これまでの約1年間で延べ50以上の施設を訪問させていただきました。

訪問時には、病院へのご意見・苦情などを実際に関わっている職員の方から直接お聞きし、それを元に病院業務の改善に努めるとともに、併せて患者紹介・逆紹介の推進依頼や退院支援等にかかる意見交換もしております。

退院支援看護師・医療ソーシャルワーカー（MSW）・事務職員等が1～2週間前に事前連絡のうえ伺っておりますので、訪問の際には忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



赤ちゃんにやさしい病院 (BFH ; Baby Friendly Hospital) 認定に向けて

母乳育児推進委員会 今野貴子



ユニセフ・WHO は母乳育児の重要性を呼びかけており「母乳育児を成功させるための 10 カ条」を推奨しています。当院でも上記 10 カ条に基づき、今年度「赤ちゃんにやさしい病院 (BFH ; Baby Friendly Hospital)」認定の申請を目指し、母乳育児推進に取り組んでおります。妊娠 20 週時に乳頭マッサージを指導し、おっぱいに興味を持って頂き、赤ちゃんが生まれたらすぐに吸えるようにお母さんに準備をして頂いております。また、母親学級でも母乳栄養の素晴らしさを伝えており、お母さん方の母乳に対する意識も高まっています。

分娩後は早期母子接触後、分娩台で初回哺乳のお手伝いをし、出産直後から終日母児同室・母児同床を行い、赤ちゃんが欲しがるときに欲しがらだけ授乳が出来るよう母乳育児継続の支援をしています。医学的に必要でない限り、病気以外の全ての赤ちゃんに対して母乳以外のものはあげていません。赤ちゃんにとって母乳が一番ですが、追加栄養が必要な場合もあります。補足の基準に添い、医師・スタッフ間でカンファレンスを行い、ミルクや糖水も適切に補足しています。また、祖父母学級も開催し、退院後も不安無く、育児を続けられるように、産後 2 週間健診を開始しました。

母乳育児を通して、母と子の心の絆が深まり、楽しく育児が出来るように専門スタッフだけでなく、地域を含めた支援が必要です。今後とも、当院の取り組みをご理解して頂き、御協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



褥瘡予防対策委員会からのお知らせ

●褥瘡研修会を開催します

テーマ 「こんなときどうする？褥瘡ケア」

開催日時 10 月 13 日 (金) 17:45~18:45

会場 磐井病院 2F 多目的会議室

参加対象 医療・介護・福祉に携わる職種どなたでも

主催 岩手県立磐井病院 褥瘡予防対策委員会

参加費 無料

★日頃、褥瘡ケアに悩んでいることはありませんか？

よくある、こんなとき？について、多職種がアドバイスをします。お気軽にご参加ください。

参加ご希望の方は、下記までお問い合わせ下さい。

申込締め切り日：9 月 14 日 (木)

岩手県立磐井病院 医事経営課 内線 1353 まで

TEL : 0191-23-3452



●「床ずれ予防の日」イベント開催します！！

開催日時 10 月 20 日 (金) 9:00~16:00

会場 磐井病院外来待合・交流の街

参加対象 どなたでも

参加費 無料

申し込み 不要

《内 容》

床ずれって何だろう？予防するにはどうしたら良いの？床ずれに関する情報を、ポスター・パンフレット・展示などで、わかりやすくお伝えします。ぜひ、お立ち寄りください。



岩手県立磐井病院

【連絡先】

〒029-0131 岩手県一関市狐禅寺字大平 17

電話 (0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691

連携室直通 Fax (0191)-21-3990

【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室

病院ホームページ: <http://www.iwai-hp.com>

公式 Facebook: <http://www.facebook.com/iwaihp>